

評価結果概要表

【評価実施概要】

作成日 平成20年 1月28日

事業所番号	2779500640	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法人名	(株)ディー・エッチ・アイ	所在地	大阪市東住吉区山坂5-5-14-103
事業所名	グループホーム 白馬	評価調査日	平成 20 年 1 月 25 日
所在地	大阪府阪南市箱の浦452-3 電話 072-481-3666	評価確定日	平成 20 年 2 月 2 日

【情報提供票より】(平成19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数 18 人
職員数	14 常勤 13 人 非常勤 1 人 常勤換算 6.7 人

(2) 建物概要

建物の構造	鉄骨造り 1階建ての(1階部分)
-------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3万円	その他の経費(月額)	2万円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 50万円 入居時一括	償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり		3万円	円

(4) 利用者の概要(12月22日現在)

利用者人数	16名	男性	1名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢 平均	83才	最低	71才	最高	97才
(5) 協力医療機関名 第二なぎさクリニック 野上病院・高松歯科医院					

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

事業主体の法人が地域対象のクリニックを2院運営しており、このグループホーム白馬は、そのクリニックの1院と同一敷地内に設けられている。利用者の定期的な検診も、内科についてはクリニックの医師から往診を週1回受け、その他の診療科目については気軽に受診、往診ができています。したがって、利用者にとって各医師は日常的に顔なじみとなり、気安く診療してもらっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入浴については原則週3回としており、建物も構造的に防音、保温、換気には問題はなく、入浴回数については現状で可としたい。利用者へのボランティアの活動受け入は適宜に実施されている。職員の殆どは、運営者の方針で職員として採用し、勤続定着化を図っているため、退職者が殆どなく、研修も序々に実施されつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、施設長と管理者が各職員と検討を重ねて作成している。又、各種のファイルは適切に保管管理されており、閲覧で取り出し易くするために、ファイルは同一仕様の製品で色別している。日常の利用者毎の看取りと、話し合いの記録は洩れなく日々記録されて、ケア改善の基礎としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は平成19年2月8日に第1回を開催し、第2回は平成19年9月6日に開催された。出席者は阪南市役所 介護保険課、箱作校区福祉委員会委員長(民生委員 兼任)、契約看護師、及び、当ホームの関係者として開催された。討議内容は、主として認知症の方の自立生活援助等の実施状況の説明を行った。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族アンケートの回収率が44%で、必ずしも充分ではないが、回答者の殆どの方が満足した内容を寄せている。ご要望の中で、ご家族が利用者とは内密で、職員と相談したいという意向を持った方から、来所した時に、適切な場所の設定を考慮して欲しいという希望があった。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは地元の方々を受診に来られるクリニックと同じ場所にある。地元の方々とは散歩の途中での挨拶や、移動図書館での交流が行われている。

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のホームとしてクリニックと同じ敷地内に設置され、親しまれるホームとしての理念を掲げている。		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の業務引継ぎは規則正しく確実に、理念に従って行われている。	○	職員に繰り返し、利用者への安心と喜びとなるように、理念の実践を訴えて欲しい。
2 地域との支えあい					
	3	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	運営推進会議によって自治会との接触が進められ、ホームの存在の意義が伝えられている。	○	地元自治会の方々との日常の接触や、保育園、幼稚園、小学校、中学校等との交流も検討してみてください。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長と管理者は、今回の自己評価に際し、各項目ごとに話し合っって評価票を作成した。		
	5	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議によって地域の連携が進められ、ホームの活動の紹介が出来ており、又、認知症についての理解を深められるよう見学も促している。		
	6	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	阪南市の担当者と話し合う機会が増え、又、市の介護相談員の受け入れをして意見を伺い、改善の手掛かりとしている。		
4 理念を実践するための体制					
	7	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、一人ひとりについても、個々に記入して送っている。来訪時や電話によることも実施している。		
	8	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話によることもあるが話し合っって運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9	18	<p>○ 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>企業が従業員を採用する際と同じような考えを、職員採用の方針としており、職員の退職は特別な事由がない限りありません。又、臨時の方は、部分的な業務を分担している。</p>

	10	19	<p>○ 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<p>介護の知識と技術のレベルアップは、内外の絶え間の無い変化に合わせる必要があるので、法人内外の研修会も優先事項として検討して欲しい。</p>
	11	20	<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>地域の事業者との交流が行われており、相互の専門知識の交流ができるので、訪問や勉強会には参加している。</p>

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12	26	<p>○ 馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		<p>体験利用を原則として実施している。ご家族やご本人には、あせらずにホームの雰囲気に馴染んでいただけるよう配慮している。</p>
--	----	----	--	--	---

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13	27	<p>○ 本人と共に過ごし、支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		<p>入所時からご本人の生活歴、嗜好、くせ等を、できるだけ家族からも聞き取ったり、記入をしてもらっている。職員も普段から付き添っての聞き取り、看取りをしている。</p>
--	----	----	--	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14	33	<p>○ 思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		<p>日常生活の行動の看取りや対話から、意向や癖の把握に努めている。把握した内容は、日々記録をするようになっている。</p>
--	----	----	--	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15	36	<p>○ チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		<p>職員は分担して利用者の専任担当となり、その上で話し合いと看取りを行い、家族との連携も図っている。これらを職員のケア会議に持ち寄って、ケアの改善を進めている。</p>
--	----	----	---	--	---

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の介護で個人毎に把握された事例の記録がファイルされており、見直し期間に拘わらず、変更が必要となった際には、必要な手続きを実施している。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所はホームと同じ敷地内のクリニックに、多数の診療科目があり、それらでの受診も含めて、出来る範囲内の支援を行っている。		
----	----	---	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	上記のように日常的にクリニックの医師、看護師との接触があり、恵まれた環境にある。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	容態が変化した時の対応は、すぐに構内のクリニックに入院できるので、本人、家族も安心しておられる。職員は対応マニュアルで対処を行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳について、職員の研修は行っているが、日常の引継ぎ時には注意を喚起している。		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、自由に日常生活を送ってもらっている。生活上の全てのことについて、希望を聞き取るよう努力している。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の皆さんが食事を楽しみにしている。準備の手伝いや、片付けは、一部の方に限られている。 昼食時には穏やかなムードの音楽が流されていた。		
----	----	---	---	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	<p>○ 入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>入浴は原則的には週3回となっているが、時には嫌がる方が居るので、説得して入浴してもらっている。尚、機械浴は隣接のクリニックで可能となっている。</p>

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	<p>○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>職員で工夫して各種のメニューを実施して来た。移動図書館で借りた紙芝居が案外、評判が良い。音楽等にボランティアの活動を頂いている。</p>
	25	61	<p>○ 日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している</p>		<p>気候に合わせて適宜、数人づつで散歩を行っている。</p>

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	<p>○ 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>不穩者がいない場合は、日中、玄関の鍵は開放されている。</p>
	27	71	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>避難場所はクリニックの駐車場として訓練計画はできている。応援体制の確保は、検討中となっている。</p>

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	<p>○ 栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>摂取量のチェックは出来ている。個人毎について、特に、医師の指示がある場合は、それに従い、対処している。</p>
--	----	----	---	--	--

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	<p>○ 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>ホームは国道沿いにあるが、建築がしっかりしているからか、自動車による振動、騒音は殆ど気にならない程度である。共用の居間は、一部高い天井で、落ちついた雰囲気、壁の掲示物も必要最低限のカレンダーと、手作りの季節のポスターで、部屋全体がすっきりとした色彩感となっていた。</p>
	30	83	<p>○ 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>好みによって自由に家具類を持込んで過ごしており、部屋の色調は、共用室と同じで落ち着いた感じとなっている。</p>